

# 民営化を基本にすることでいいのか

## 総務委、日帰り・宿泊温浴施設などで議論

3月25日の総務常任委員会の所管事務調査で、第三セクター等の経営健全化に関する取組、日帰り・宿泊温浴施設の「適正配置」の取組について質疑が行われました。

第三セクター経営健全化については、大島、浦川原、牧の農業振興公社、(株)みなもとの郷、有限会社やまざくらの5法人についての方向性が出されました。いずれも地域の団体などとの統合や事業譲渡などを視野に入れた方向性となっています。

私は地元の(株)みなもとの郷が吉川区の地域振興に果たしている役割の大きさについて言及し、経営のみならず、地域振興のこともしっかり考え、現在の会社の意向を尊重して方向性を検討するよう訴えました。

日帰り・宿泊温浴施設については、く

わどり湯ったり村、牧湯の里深山荘、柿崎マリンホテルハマナス、板倉保養センターの4施設をプロポーザルにかけ、民営化を基本にしつつ、それがうまくいかなかった時は指定管理にしていくとしています。大湊観光スポーツプラザ鶴の浜人魚館、吉川ゆったりの郷の2施設は指定管理をしていく(令和12年度まで)方針です。

私は12月の総務常任委員会で市が「ネクストリゾートとの協議で、会社からは「この取組にはなかなか承知できない。」とのことだった。新たな会社をスタートさせて1年にもならない中で、本当にわかしてもらえる、承知してもらえる関係になったのか」と質問しました。市は「指定管理者の選定にあたっては、当社



の決算を踏まえた上で判断するよう要請された」とのべていました。

また、私は、プロポーザルを実施するとした場合、「市内に本社を置く事業者」への加点を十分行うこと、選定委員会の委員選出については地元委員を複数選出し、地元の意向を十分尊重するよう求めました。

日帰り・宿泊温浴施設については、旧町村時代からの歴史と住民要望をしっかり踏まえた対応が求められています。

## 盛況だった共産党演説会



小池晃書記局長を迎えて30日に行われた日本共産党演説会は約400人が参加し、大きく盛り上がりました。

小池氏は、東京電力が柏崎刈羽原発の再稼働に向けた動きを見せていることや岸田政権の次期戦闘機の第三国輸出方針などを批判し、政治の民主的な改革を訴えました。



【オニシバリ】ジンチョウゲ科の常緑小低木。漢字で「鬼縛り」と書きます。別名はナツボウズです。雌雄異株で、大きくなっても、高さは1メートル50センチほどです。花期は2月～4月。花は淡黄緑色です。花言葉は、「変わり者」「永遠不滅」など。写真は3月26日、吉川区竹直で撮影しました。

## コウノトリ、抱卵か

吉川区内で巣作りをしていたコウノトリのつがいは、その後、市内の別の場所で新たな巣作りを始めていることが1日、確認されました。

巣作りをしているのは、2020年4月9日、兵庫県豊岡市生まれのオスと2021年4月4日兵庫県豊岡市生まれと思われるメスです。

このつがいは2日には、卵を孵化(ふか)させるため抱いて温める体制に入ったようです。静かに見守り、巣立ちを実現させたいですね。



はしづめ法一の  
活動レポート

No.2152 2024.4.7

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第七九九回 一本の長い棒

二月の下旬頃だったでしょうか、朔日峠に近い吉川区内のKさんの家でお茶をご馳走になったのは……。

この日、私は活動レポートの配布などで動いていました。玄関に入って声をかけると、お連れ合いのYさんが出てきてくださり、「まあ、久しぶりだね。入んなねえ、お父さんもいるし」と誘っていただきました。

じつはYさんは、私の小中学校時代の同級生のお姉さんです。同級生のことなどいろいろと話を聴きたいと思っていましたので、「ほしや、ちょっとおじゃましようかな」と入らせていただきました。

居間に入ると、Yさんは台所から沢庵を出してきて、「何もねえもんで」と言われました。「おれ、漬物が好きなんです」と言って手を伸ばしたのですが、色も味も申し分のないものでした。

お茶を飲みながら、北側の窓を見ると、隣の家が見え、軒下に干し柿が干らされていました。私が住んでいる地域では、干し柿づくりをする人がけっこういますが、二月の下旬にもなっても、まだ干している人がいたのです。食べたくなりました。

食べ物の話が一段落したところで、私の目に入ったのはコタツのそばに置いてあった一本の細い棒です。「何に使いなげね」と訊いたら、「どう●●棒」だがね、という答えでした。簡単に言うと、コタツに入ったまま、ファンヒーターのスイッチを入れたり、切ったりすることができるようにする道具です。Kさんが考案したのだそうですが、私は立って移動しなくてもいい「らくちん棒」だと思いました。

棒を手にしたところ、この棒は、手元が直径一センチほどの筒になっていて、その中に木製の細長い棒が入れられていました。先っぽの方は黒いセロテープで巻いてありました。先っぽの太さは五センチくらいです。

「長さは一メートルくらいかな」と私が言うと、Yさんが居間の奥の方にその棒をもってきて、モノサシで長さを計ってくださいました。「一メートルだね」。思っていた以上に長い棒です。

それにしてもよく作ったものです。七〇代にもなると、コタツから立ち上がるだけでも一苦労する人が大勢います。立たないで、コタツに入ったままストーブを操作できるようにしたい。Kさんだけでなく、おそらく他の人も一度や二度は考えたことがあるだろうと思います。でも、作るころまではいきません。何が直接のきっかけとなったかまでは訊きませんでした。Kさんが、この「らくちん棒」を初めて作ったのは五、六年前だということでした。

便利なものを作ったものだと思っただけではありませんでした。Kさん宅のコタツに入った人の何人かは、「いいものを作ったね」とほめていたとのこと。私と同じ気持ちだったんですね。

世の中には、出来上がった製品を見ると、「なあんだ、こんなに単純なものか」と思うものがあります。その代表格は、Kさんの家でも使っていたファンヒーターダクトです。ヒーターの熱をコタツに引き込む。そのため筒（風道）を用意する。ただそれだけなのに、この筒は大ヒットし、現在も多くの家庭で使われています。

Kさんは真面目で、目立つことをされない方です。「らくちん棒」を商品化すれば、ヒットすると思いますが、そういうことはされないでしょうね。

Kさんはいま八八歳。寒さが残っていてコタツがあるうちは、世界でただ一つの自作の細長い棒を自分のそばに置き、ごく自然にファンヒーターのスイッチを押し、離したりされているはず。その姿を思い浮かべたならば、Kさんにとっては、それが一番いいように思えてきました。

## 「かんべつうしん」の関川さん亡くなる

家族新聞「かんべつうしん」で知られている黒井の関川幹雄さんが先日、81歳で亡くなりました。

関川さんは文化活動や平和運動などに力を入れてこられました。関川さんとは、牧区の深山荘で開催された全国家族新聞交流会以降、親しく付き合いをさせていただきました。私のブログを毎日読んでくださり、私のエッセイ集もすべて購入して読んでくださっていました。

弔問に行ったら、「思い出コーナー」のスライドの一枚に、私が2018年5月5日に撮影した写真が使わ



れていました。うれしかったです。

上越の家族新聞の仲間は、池永文雄さん、柳川月さんに続いて関川さんまで失うこととなりました。残念です。



## 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	3月27日(水)	4月3日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.070	0.067
東頸消防署	0.043	0.040
名立分遣所	0.060	0.053
高士分遣所	0.047	0.050

## 水墨画展作品から

左の水墨画は先日の水墨画フェスティバル(ミュゼ雪小町にて開催)で注目された作品のひとつです。

作品のタイトルは「銀河鉄道の夜」。柿崎区上下浜小学校のSさんが描いた作品です。力強く、素敵です。

